



R6.3.1

今年度最後の月となりました。3年生とはお別れです。
 3月3日は「耳の日」。普段は意識することのない耳の働きですが、「もし、聞こえが悪くなったら・・・。」と考えると、今の生活を維持するのが難しくなってくるのが分かりますね。
 健康について考え、感謝して今年度を締めくくりましょう。
 3年生の皆さん、たくさんの思い出をありがとうございました。

耳が聞こえにくいと...

普段、生活していると周りから人の話し声や車の音、雨の音などいろいろな音が聞こえてきますね。みなさんは知らないうちにその音を頼りに生活しています。でも、聞こえにくい人や耳が聞こえない人もいます。もし耳が聞こえにくかったら、どんな場面で、どんなことに困りそうか考えて、線ですらないでみましょう。



- 自動車が近づいても気付かない
- 非常時の放送やサイレンが聞こえず、適切な行動がとれない
- 手話や字幕がないと内容がわからない
- 聞こえる人同士の会話に入れない
- 自分の名前を呼ばれても気付かない
- 電光掲示板がないと停車駅がわからない



音が聞こえないと困ることがたくさん。でも、手話や筆談、スマホを使うなど、伝える方法もいっぱいあります。もし困っている人がいたら、何ができるか考えてみましょう。

～3.11 被災地視察研修に参加して part8～

令和5年3月27日～29日の間、「3.11被災地視察研修」に参加しました。

震災当時の大川小学校の養護教諭について、遺族で当時中学校教諭だった佐藤さんに尋ねました。大川小学校の養護教諭は、まだ新規採用後、数年目の若い方だったそうです。(思わず心の中で合掌)

佐藤さんは、自身の震災前後の中学校生活を振り返って、養護教諭の役割は大きいと言われました。普段は多い保健室利用者が、災害後は減る。大人が生活再建に大変な中、子どもは、しんどい事を言わなくなるのだそうです。そんな時に弱音を吐いたり、泣いたりできる場所が保健室なのだと。

現地の言葉

「災害後の保健室の役割は大きい。」
 ～1年間の掲載は終わります。

ありがとうございました！～